

やまのかたりべ

第61章 表妙義山 相馬岳

以前関越道で長野へ向かった際、カッコいい山々が目の前に広がった。その名は妙義山。いつか行きたいと思い数年が経過。今回その念願がやっと叶い、表妙義山の一部、相馬岳に繰り出した。

〈ポイント1〉

上毛三山の一つに数えられ、日本三奇勝の一つである。表妙義山は、白雲山、金洞山、金鷄山の三峰からなり、山容は非常に険しく、石門群、大砲岩等、奇岩怪石が林立している。春の桜、秋の紅葉の季節は美しく、まさに天下の名勝である。石門をめぐるコースは人気の登山コースで、奇岩怪石を間近に見ることができる。(富岡市観光おもてなし課、リーフレット参照)

〈ポイント2〉

表妙義と裏妙義

白雲山、金洞山、金鷄山を中心とした一帯を表妙義と呼び、鳥帽子岩、赤岩、丁須の頭などを裏妙義と呼ぶ。どちらも非常に急峻で複雑な地形をしている。

夫が運転する車で出発。道中、いろいろ会話が弾み…カーナビが指し示す「松井田妙義 IC」の出口を過ぎてしまう。「ここで降りないの？」と会話を中断して問いかける私に、夫「!!! もっとはやく言ってよ～」と車の中で叫ぶ。いくら叫んでも途中下車は出来ない。一時間のロス…。カーナビの意味全くなし。

次のインターで降り、また高速に乗り戻る…なんて無駄な時間と高速料金…。しかし、これで表妙義と裏妙義を高速より一望。カッコいい。

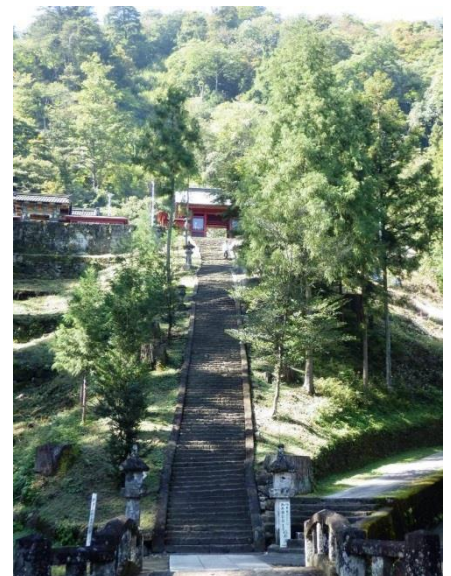
10時25分 駐車場到着

いくつか駐車場があるなかで、富岡市営登山者用駐車場を利用。思ったより駐車している車が少ない。身支度して早々に出発。近くに道の駅「みょうぎ」があり、ここでお手洗いを済ませてからの出発をお勧め。登っている道中、お手洗いは無い。

10時35分 登山口到着

妙義神社を通過し、妙義神社南門をくぐり登山口へ。登山口の看板にはクマ出没掲示がある。EOJの熊鈴を装備し出発。

相馬岳に向かうまで、いくつかコースがあり今回は「大」文字経路で登ろうと話していたものの、早い地点で違うコースに進んでいた様子。「大」文字は遠くからちらちら眺めながら歩く事になる。最終的には目指す相馬岳に到着するので、戻る事はせず二本杉茶屋跡を通過するコースへ。



登り始めは林道の中を進む。緩やかな登り、空気はすっかり

(妙義神社への長い階段)

秋の空気。登山者もなく、静かな道。ドングリが上から落ちてくる音にドキッとする…。先頭を歩く夫もたまに周囲を確認。微妙な物音に神経過敏になる。

11時05分 二本杉茶屋跡到着

昔茶屋があったと言われないと普通に通り過ぎてしまいそうな場所である。遠くに見えた「大」の文字が徐々に近づく。ここから、少しずつ鎖場出現。

<ポイント3>

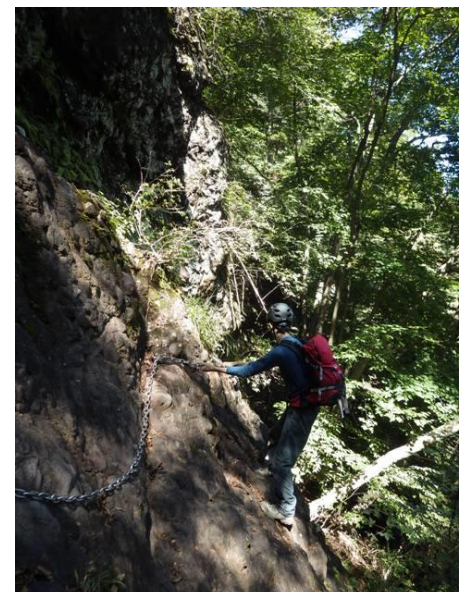
その昔、白雲山の「大」の字は白雲山の中腹にあって中山道を通る旅人の目印になっていたそうだ。妙義大権現の「大」の文字。(富岡市観光おもてなし課、リーフレット参照)



(見晴し台より)



(鎖場、下から見上げる)



(トラバース)

しばらくいくと「見晴し台」という標識が現れる。眼の前にはそそり立つ岩肌が…迫力ある。次のポイント「辻」という場所に到着するまでいくつか鎖場を通過。トラバースする箇所も有り慎重に足を進める。アスレチックの様でなかなか楽しい。しかし、慎重に！！頭にはしっかりヘルメット着用。

11時35分 辻に到着

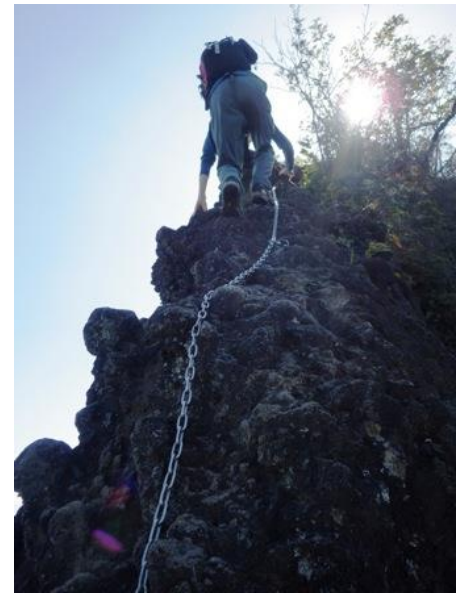
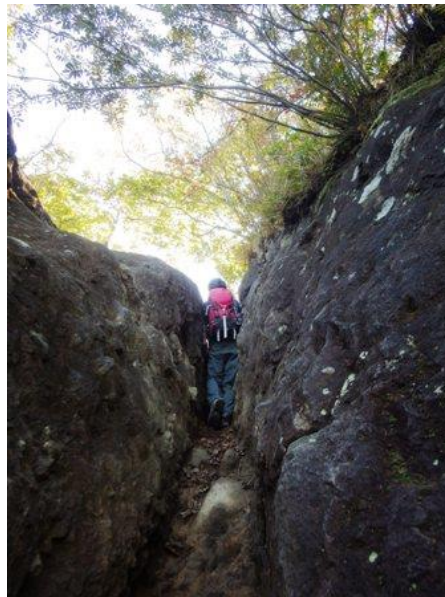
岩には「↑キケン 上級」と記されている。資料などでもこの辺りで、滑落死亡事故数件と記載されている。

水分補給し出発。

少し行くと奥ノ院という岩の祠が現れる。コースから少し外れるが足を運んでみる事に。斜めになって崩れかけている石段を登り、さらに人工の梯子を上る。目にしたのは石碑といくつかの石仏。そこから見える下界の景色を修業の合間に目にしたのであろうか。神聖な雰囲気漂う。

元の道に戻る。ここからは岩場を直登。上を見上げる…長い岩場で、鎖がしっかり設置されている。地図上では30メートルの鎖場と記載されているが、実際目にするともっとあるのではないかと感じる。腰が引ける…。

その後も樹林帯の中の狭い尾根を登り、人工的に作られたであろう石の階段を登る。



(見晴しポイント手前の鎖場)

(狭い岩の間)

(キレット)

見晴しに到着して一息つく。パラグライダーを発見。気持ちよさそうに空を浮遊している。次のポイントとなる大のぞきまで狭い岩の間を通過し、またもやいくつかの鎖場を通る。ビビリ岩と地図上で記載されているところは3連の鎖が設置してある。岩がある程度つかみやすい形をしているのでありがたいが、やはり確保できない状態では怖い。途中キレットもありなかなかの難所。確かに、ある程度の筋力と体力が必要な山だと改めて認識する。難所が多い山のせいかすれ違ったパーティーなし。



13時10分 大のぞき到着
大のぞきには御嶽三社大神社の石碑が祀られている。
そして今度は一気に下る。地図上では10m×2、30m×1の鎖場と表記されている。下を見ると足がすくむ。最近感じていたことだが、以前に比べ私は高所が苦手になってしまったようだ。
ここで先行に行く1パーティーに会う。先パーティーが下り終えたのを確認し、自分たちも降りる。ほぼ懸垂下降の様。
ここは鎖がついているからある程度安心して降りることが可能だが……ロープワークの経験をもっと積まねばと思う。

(大のぞきから天狗岩)



(長い鎖場)



この後、次の通過点となる天狗岩までもとところどころに難所があるので気を抜かず歩く。樹林帯の中を歩く木々の切れ目から景色がちりり楽しめる。

13 時 45 分 天狗岩通過

天狗岩の標識は樹林帯の中にある。天狗岩からタルワキ沢のコルまでは樹林帯の下り道となる。タルワキ沢コルに到着。今回はこのルートを下山するが、相馬岳に向かうため通過。相馬岳までは樹林帯の中の急登りとなる

14 時 10 分 標高 1,104m 相馬岳山頂

紅葉少々始まっている。

視界はよかったが遠くの山々には

もやがかかり山の稜線はきれいに見えず…

ラーメンでも作ろうとバーナーを持ってきていたがあまり食欲がわかない。行動食をサクッと食べ

2 人共ば〜っと過ごす…。

静寂を破るようにカサカサ鳴る葉の音に時より驚く。あわててザックにつけた熊鈴を響かせる。

14 時 25 分 相馬岳山頂出発



(EOJ のプチベル 奥の山は金洞山)

14 時 35 分 タルワキ沢のコル到着

ここからタルワキ沢出会いまでガシタ道の下りとなる。途中自分も足を滑らす。気を抜いてはいけない。

道中、鎖場二箇所。丸太で造られた階段を下りタルワキ沢出会いを通過、第二見晴らしに到着。しばらくすると沢にかかる鉄橋を渡り大黒の滝が現れる。水量が少なく迫力に欠ける。その後第一見晴と呼ばれる場所に着き、登り始めた地点に戻る。

16 時 登山口到着

標高 1200mに達しない山だが、岩場が多くキレットにドキドキ。鎖場から下を見下ろすときの緊張感。

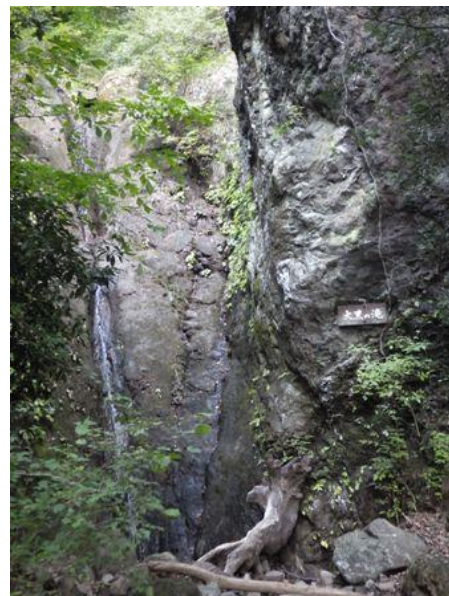
全て含めて楽しい登山となった。

久々に山を歩いた夫、早々に筋肉痛なのか数時間後に足が痛いと言っていた。

表妙義、裏妙義、全て歩いてみたい。

また訪れたい山が一つ増えた。

桜の時期、紅葉の時期も訪れたい。



文責:松田留美

(↓ 遠くからみた大のぞき ・ ↑ 大黒の

滝)

パーティー:(松田次郎・留美)

10 時 35 分	登山開始	
11 時 05 分	二本杉茶屋跡	着
11 時 35 分	辻	着
13 時 10 分	大のぞき	着
13 時 45 分	天狗岩	着
14 時 10 分	相馬岳山頂	着
14 時 25 分	相馬岳山頂	発
14 時 35 分	タルワキ沢コースの分岐	着
15 時 45 分	大黒の滝	着
16 時 00 分	登山口	着

